

第一回 鍛造講座： 豊和鍛工流・ISO勉強会

第1回「ISOってそもそも何？
私たちの仕事にどう役立つの？」



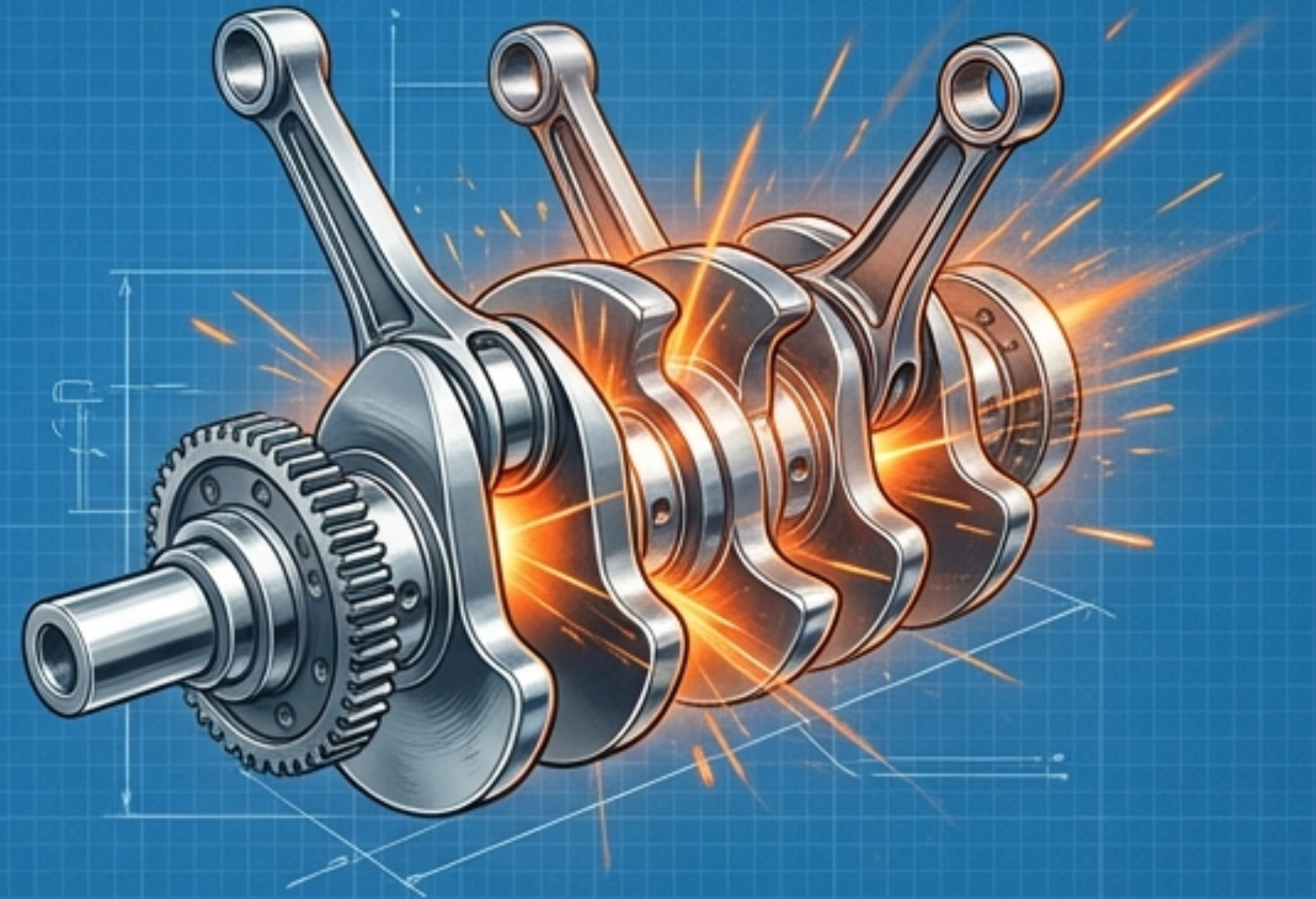
豊和鍛工株式会社
豊和鍛工株式会社・ISO事務局

なぜ今、改めてISOを学ぶのか？



よくある誤解

- ・「審査員に見せるための面倒な書類作り」
- ・「現場の仕事には関係ない」



真実

ISOは、豊和鍛工が未来へ勝ち残るための「エンジン」であり、皆さんの「匠の技」を守るための「道具」です。

これは全10回で学ぶ「豊和鍛工流」の第一歩。今日は、難しい専門用語なしで「基本のキ」を押さえます。



ISOの正体 = 「世界共通のモノサシ」



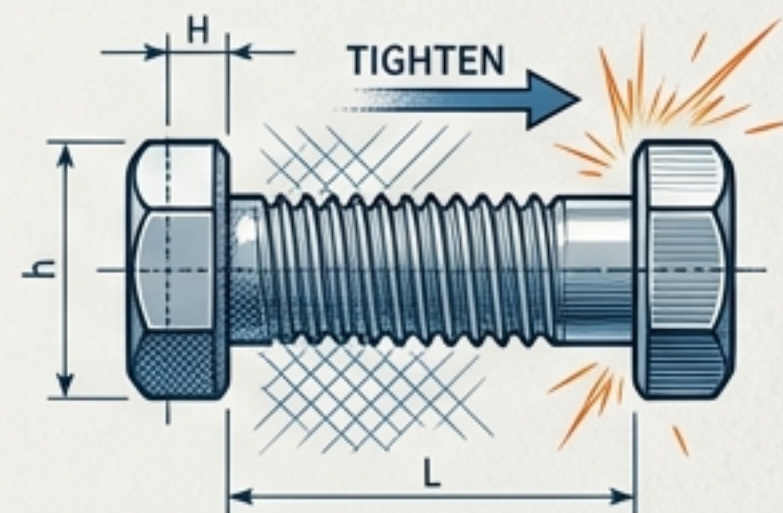
ISO (国際標準化機構)とは?

スイスに本部がある、世界中のルールを決める組織。



身近なISOの例:

- 非常口のマーク (どこへ行っても緑色で走る人)
- クレジットカードのサイズ (世界中のATMで使える)
- ネジの規格 (どこでも締まる)




豊和鍛工のISOは?

「モノ」の規格ではなく、「組織の運営ルール(マネジメントシステム)」の規格。「いい仕事をする会社の運営ルール」の世界基準です。

豊和鍛工の「IMS」：2つの規格を合体させた仕組み

ISO 9001 (QMS)




目的：顧客満足

現場の意味：
「いつでも、誰が作っても、
お客様が喜ぶ高品質な
鍛造品を届ける」



ISO 14001 (EMS)



目的：環境配慮

現場の意味：
「ムダ(電気・材料)を
減らし、地域や地球に
優しい仕事をする」



IMS
(統合マネジメントシステム)



これらを別々にせず、
まとめて運用するのが
「豊和鍛工流」です。

マニュアルの言葉を「現場語」に翻訳

マニュアルの難しい言葉

継続的改善

不適合の予防

顧客満足の上

環境パフォーマンスの上



現場の言葉

「昨日より今日、
もっと良い仕事をする工夫」

「ミスを先回りして防ぐ」

「やっぱり豊和鍛工の製品は
すごい!と感動してもらおう」

「電気代を節約し、材料のムダ
を削って効率よく働く」

会社の看板「IMS基本方針」

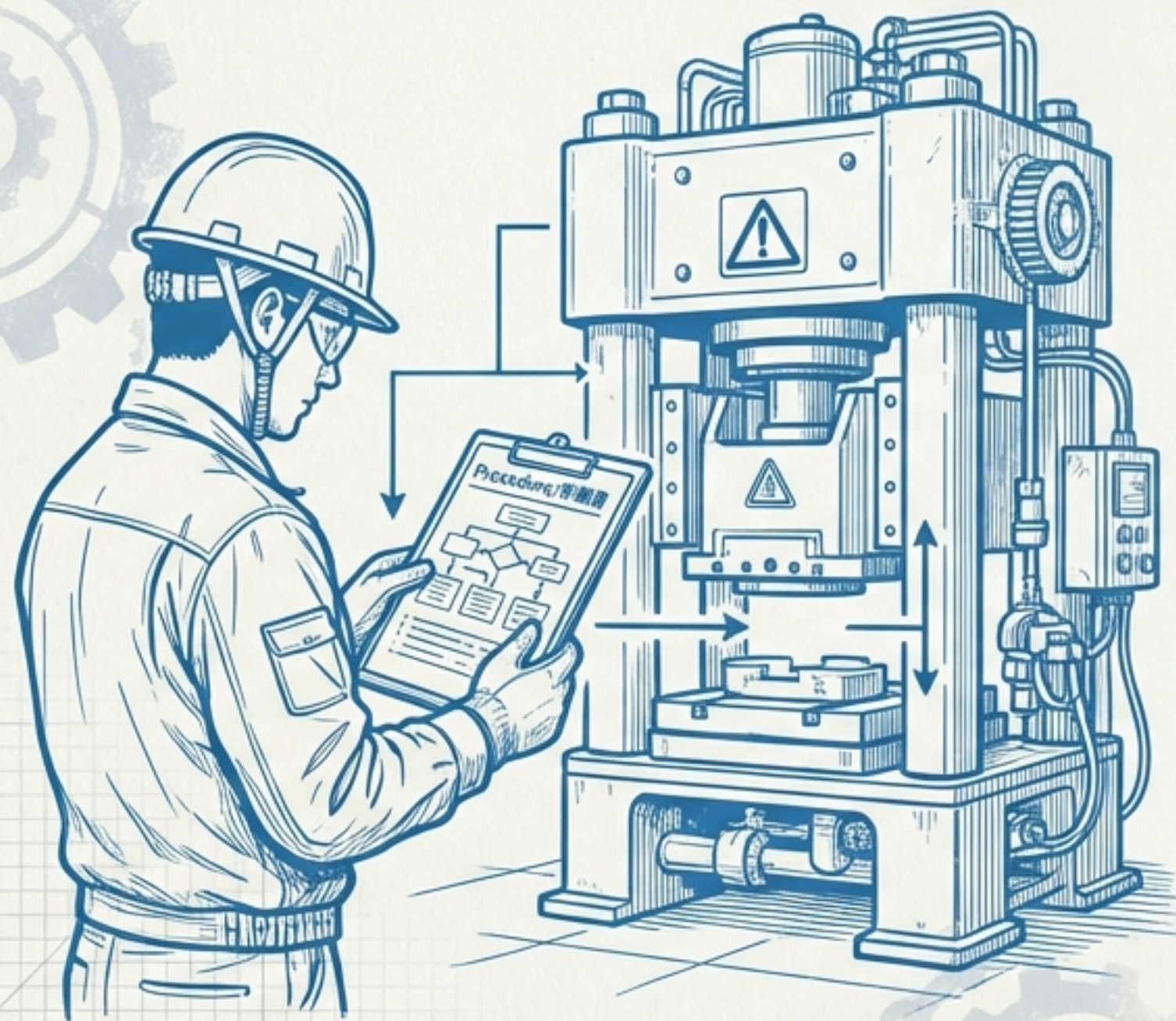
これは、会社とお客様への「約束」です。
社長（最高責任者）が定めた方針は、単なる
掲示物ではありません。
「社会やお客様に対して、何を守り、何を
目指すか」を宣言したものです。

CHECK! 現在、掲示されているのは
「第11版（2025.4.1改訂）」です。
現場で必ず最新版を確認してください。



現場の心得① ルール（標準）を知り、守る

「自己流は事故のもと」



標準とは？

作業手順書やQC工程表は、過去の失敗と成功から導き出された「現時点でのベストなやり方」。



アクション：

作業前に必ず図面や手順書を確認する。



メリット：

品質のバラつきを防ぐ。
安全を確保する。

現場の心得② 証拠（記録）を正しく残す

「書いてなければ、やってないのと同じ」



記録とは？

結果の証明であり、未来の改善のための「データ」。



アクション：

日報、検査表に、数値・判子・日付を漏れなく書く。



メリット（トレーサビリティ）：

トラブル時に「いつ、誰が、どう作ったか」を特定できる。
自分たちの正しい仕事を証明できる。

現場の心得③ 異常があったら声を上げる

「不適合は改善のチャンス」



不適合とは？

製品の傷、寸法の狂い、機械の異音。
「いつもと違う」は重要なサイン。



アクション：

隠さずに、すぐに報告する
(**Bad News First**)。



メリット：

二度と同じ問題が起きない
「**より強い仕組み**」を全員
で作れる。

ISOは「美味しい料理」を作る手順と同じ



美味しい料理（高品質な製品）
を作るには？

- 新鮮な材料（受入検査）
- 決まった火加減（工程管理）
- レシピ（手順書）

「工程」で品質を作り込む
出来上がってから「味が変わる（不良品）」
となっても、元には戻せません。
だから、プロセスの途中で決められた
ルールを守ることが重要なのです。

リスクと機会：石橋を叩いて渡る

会社を守る「予知能力」

リスク（放っておくと困ること）

- ベテランの引退、設備の故障、材料費の高騰。

Opportunity

機会（チャンス）

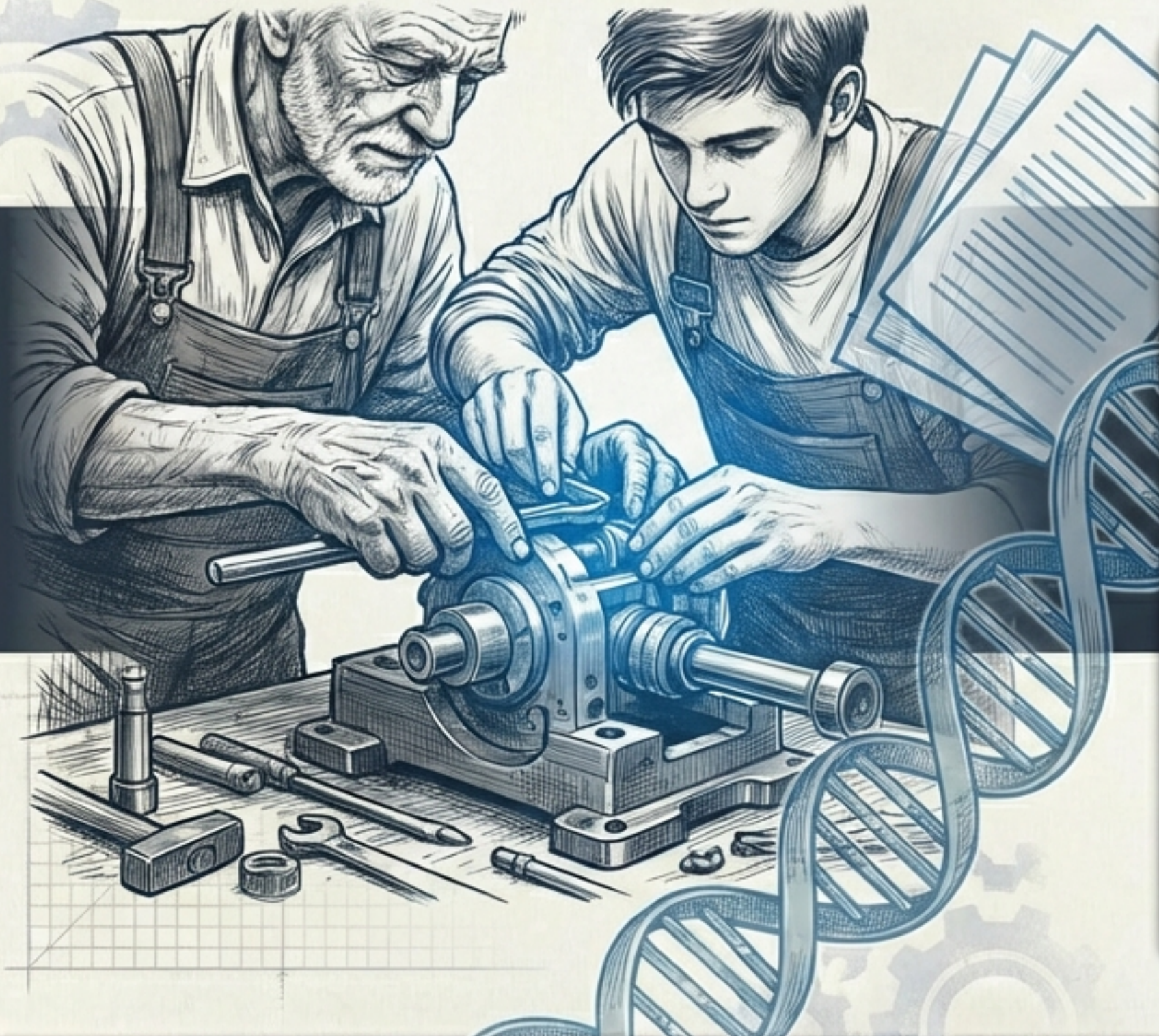
- 新技術の導入、IT化、新しい取引先の獲得。

Risk

ISOの役割

トラブルを予知して事前に対策し、チャンスを逃さないための「準備運動」です。

技術伝承：匠の技を未来へ



豊和のDNAを守る

ベテランの頭の中にある「凄腕」を、ISOの仕組みで「標準化（文書化）」する。

メリット

- 若手が早く育つ（マニュアルが教科書になる）。
- ベテランは、さらに高度な技術開発に集中できる。

ISOは技術伝承の最強のツールです。

進化のエンジン：PDCAサイクル

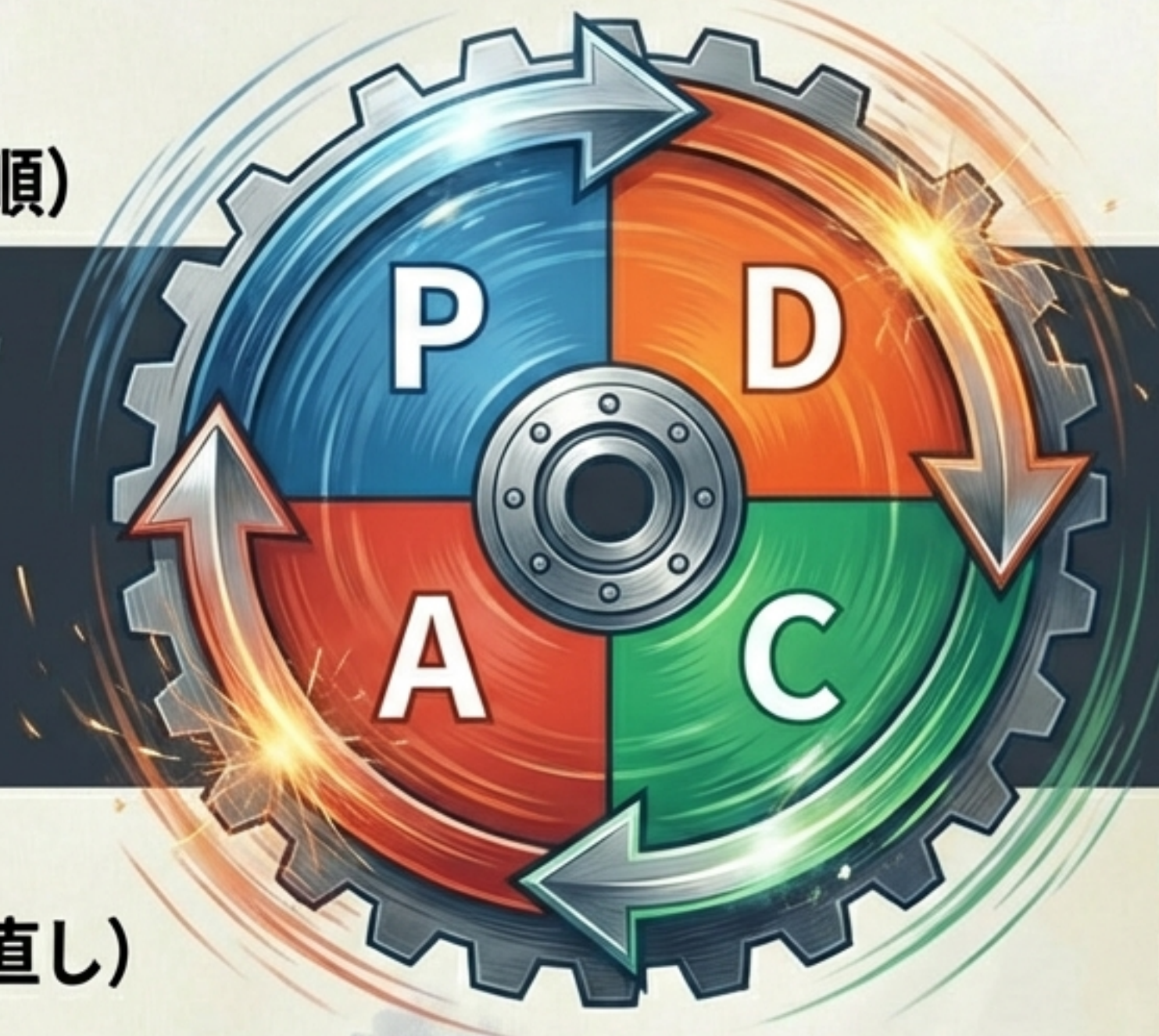


P (Plan):

計画する (目標・手順)

D (Do):

実行する (運用・記録)



A (Act):

改善する (処置・見直し)

C (Check):

点検する (測定・監査)

現状維持は後退です。このサイクルを回し続けることが「豊和鍛工の進化」です。

主役は「現場」の皆さんです



ISOの正体とは？

「お客様を笑顔にしたい」「きれいな現場でありたい」「技を伝えたい」という皆さんの気持ちそのものです。

お願い

「使いにくいルール」があれば変えていきましょう（それが改善です）。事務局も、皆さんが使いやすいルールへアップデートし続けます。

終わりになき**進化**へ



- 作業前の「手順書の確認」
- 正確な「記録」

今日からできること

1. 作業前の「手順書の確認」
2. 正確な「記録」

次回予告

- ・豊和鍛工流・ISO勉強会 第2回
「豊和鍛工の『方向性』を理解しよう
～IMS基本方針の深掘り～」